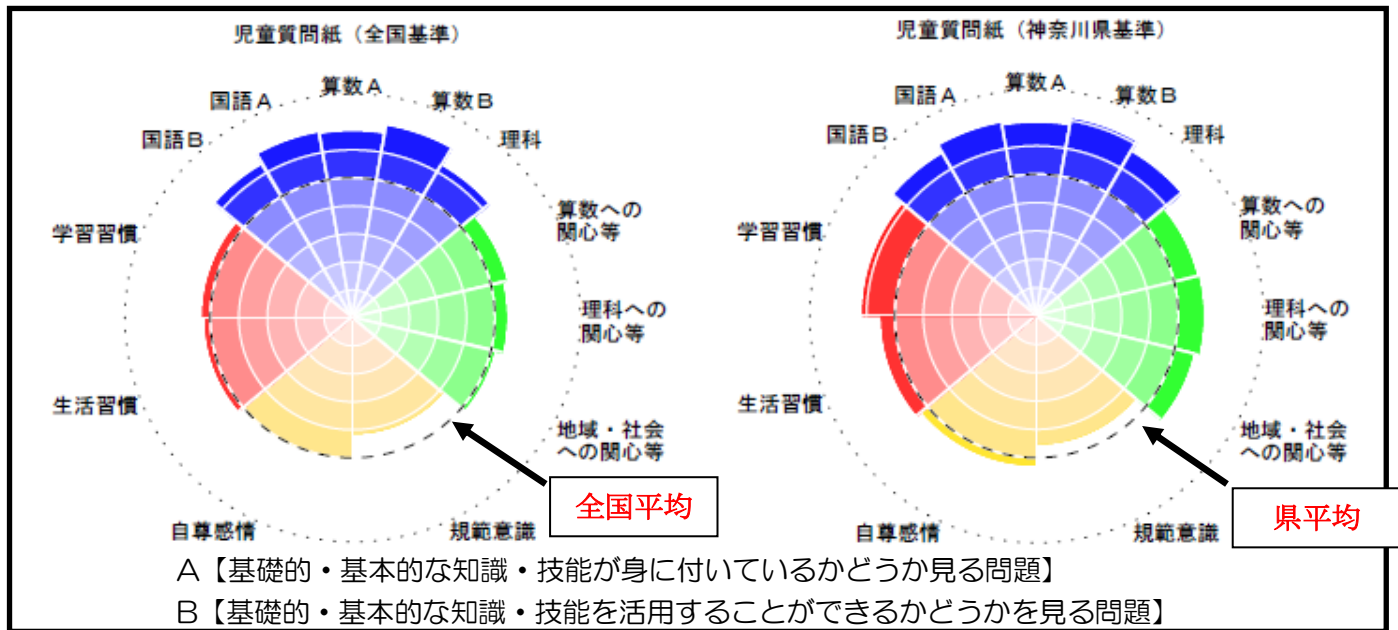


# 平成30年度 全国学力学習状況調査



**国語**…全国及び神奈川の平均をAの正答率は、14%上回っている。Bの正答率は、12%上回っている。

## ○A【主として「知識」に関する問題】

①話すこと聞くこと ②書くこと ③読むこと ④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の4観点すべてにおいて、全国・神奈川の平均正答率を超えている。どの観点でも本校は80%以上の正答率となっている。特に、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことが優れている。

## ○B【主として「活用」に関する問題】

①話すこと聞くこと ②書くこと ③読むことでのどの観点も全国・県の平均正答率を超えている。特に、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えたり、他のものと比較して書いたりすることで良さが伝わるように表現する力に優れている。

**算数**…全国及び神奈川の平均をAの正答率は12%、Bの正答率は17%、上回っている。

## ○A【主として「知識」に関する問題】

①数と計算 ②量と測定 ③図形 ④数量関係の4観点すべてにおいて、全国・神奈川の平均正答率を超えている。どの観点も本校は70%以上の平均正答率となっている。特に、問題場面から数量関係を図や数直線に表わし、数量の対応関係や大小関係を的確にとらえる力が優れている。

## ○B【主として「活用」に関する問題】

4観点すべてで全国・県の平均正答率を超えている。特に、児童自らが数量の関係を見出し、その関係が成り立つ理由を図や数直線を用いて考察する力が優れている。

**理科**…全国及び神奈川の平均を正答率は9%上回っている。

## ○【主として「知識」、「活用」に関する問題】

A区分（物質、エネルギーに関すること）とB区分（生命、地球に関すること）のすべてにおいて、全国・神奈川の平均正答率を超えている。どの観点も本校は60%以上の平均正答率となっている。特に予想を確かめる場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、調べた結果について考察する際、問題に対応した視点で分析したりする力が優れている。

## 学習・生活習慣

人の話を聞き、話し合う活動を通して、自分で考えを深めたり広げたりすることができる。また、学級での様々な学びの意欲は高く、学級で何かをやり遂げようと最後までがんばることができる。放課後や週末は、読書や学習に費やす時間は多いが、地域行事に参加する割合は低い。「学校のきまりを守っていますか」という項目で県や全国平均を下回った結果となった。

## 今後の課題と解決に向けて

身に着いた知識や理解力を活用しながら、地域や自分の成長にも目が向く課題（問題）をもつ体験的な学習を大切にする。「人・もの・こと」と関わりながら、一人ひとりが自信をもち、社会参画へ向けて自己有用感を高めながら、人間性を養えるような活動を取り入れていく。